



集いと椅子

柳澤 忠

名古屋大学・名古屋市立大学名誉教授
健康デザイン研究会代表

人間にとって他人と程良く近づき一人にもなれると都合がよい。人の集いには様々なタイプがあるが、椅子の種類とその配置が密接に関係している。椅子の評価を集いとの関係で論じてみたい。



ここに紹介する写真の椅子はある空港ロビーに置かれたデンマーク生まれのクローバーソファである。空港に集う雑多な人々が一人で時間を過ごすのにもよいし、何気なく見ず知らずの人と会話することも出来そうである。このソファが自由な集い空間を演出している。魅力的な形と存在感が人を集めるのだろう。

最近ではオフィスで沢山の書類をため込んだ特定の個人スペースを決めないで、パソコン一つを持って自由に居場所を変えて仕事をこなすフリーアドレスと称するやり方が増えている。オフィスのロビー化と言っても良からう。働き方改革に関連して、それに対応した椅子が工夫される必要がある。外来者を迎えるオフィスの場合、スタッフオンリーの領域と来客用スペースを分けず、全体をロビー化する傾向が出てきた。学校や図書館から病院福祉施設まで、人が集まる施設の椅子のあり方はかなり変わってきている。

こうした集いに対応した椅子の開発にナゼロ株式会社は意欲的に取り組んでいる。システムロビーチェアのシリーズは柔らかいロビーでの集いを誘っている。通常は独立した椅子を必要時に組み合わせて、簡易ベッドになるスリーパーチェアは人々が集まる空間での応急対応を提案している。多くの施設に必要な休養室や、万一の災害避難場所での居住スペースに応用出来るし、人の集まる駅などにも備えられると安心である。

街や建築が出来てから家具を選ぶ時代ではなくなった。生活を組み立てる家具を幅広く決めてから、その配置に適した建築や街を工夫しなければならない時代が到来した。良い椅子が生活を豊かにするのである。